

都道府県名

徳島県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	徳島県三好郡池田町立 池田中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	23
生徒数	95	113	106	4	318	

研究の概要

1. 研究主題

「生きる力」を支える「確かな学力」の育成をめざして

2. 研究内容と方法

< 研究内容 >

- (1) 教科における基礎・基本の確実な定着をはかる指導方法の工夫
- (2) 自ら学び自ら考える力を育てる授業のあり方
- (3) 子どもをより伸ばす発展的な学習の工夫
- (4) 学ぶことの楽しさを体験させる教材の開発
- (5) 学ぶ習慣を身につけさせるための「学びの機会」の充実
- (6) 学習意欲を高める評価方法の改善

< 研究方法 >

- (1) 実施学年・教科

- ・ 1年生・国語
読む・書くという力がすべての学習の基本であると考えため。
- ・ 1年生・数学
子どもの理解度に差が出やすい教科であるため
- ・ 1年生・英語
中学校になって初めて取り組む教科であり、子どもの理解度に差が出やすいため。
- ・ 2年生・理科
特に実験等においては効果的であると考えため

(2) 年次ごとの計画

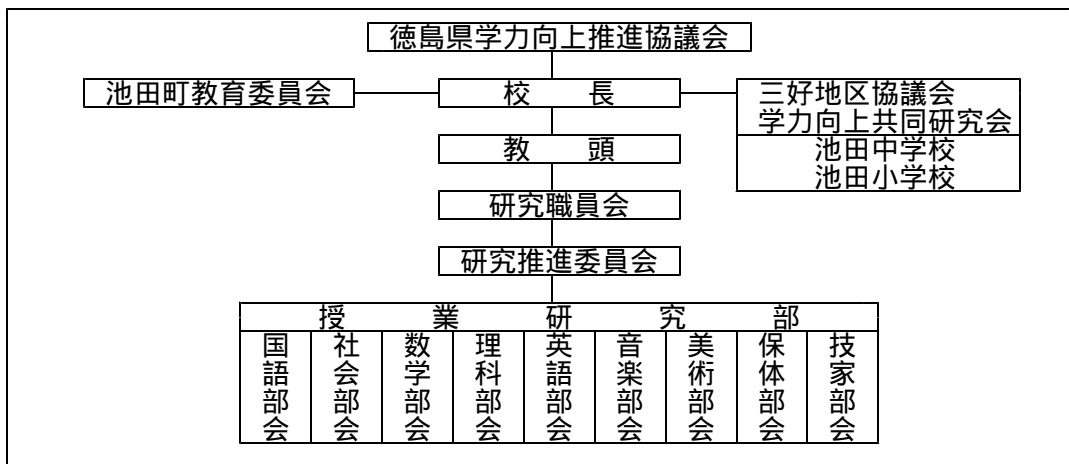
平成14年度	<p>テーマ 「確かな学力」の定着をめざして 研究の見通し（仮説）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 少人数指導や習熟度に応じた指導等，個に応じた指導方法や指導体制などを工夫し，きめ細かな指導をすることで，教科における基礎・基本を確実に定着させることができると考える。 (2) 「総合的な学習の時間」と各教科等との関連づけを工夫したり，調べ学習を通して必要な情報を収集・整理・活用したりすることで，自ら学び自ら考える力を育てることができると考える。 (3) 選択履修幅の拡大や教材・指導方法の工夫によって，基礎・基本を十分身につけている子どもに対しては，発展的な学習に取り組ませることで，持てる力をより伸ばすことができると考える。 (4) 自作教材を開発したり，学びの場を設定・拡大したり，地域の社会人講師を招いて実社会での生きた知識や経験にふれる機会を作ることにより，子どもに学ぶ楽しさを体験させることができると考える。 (5) 朝の読書や放課後の補充的な学習を支援したり，家庭学習の充実を図るために，宿題や課題を適切に与えるなどにより，学びの機会を充実し学ぶ習慣を身につけることができると考える。 (6) 教科における評価方法を工夫改善することによって，学習意欲を高めることができると考える。
--------	--

	<p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 校内研究体制づくり</p> <p>(2) 理論研究（指定校研究会への参加及び各種研究会への参加）</p> <p>(3) 校内授業研究会の実施</p> <p>(4) 研究のまとめ</p>
--	---

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>「確かな学力」の育成をめざして</p> <p>研究の見通し</p> <p>研究仮説は、昨年度と変わらないが、上記の実施学年・実施教科を研究の重点におき、全学年・全教科で取り組むことにした。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 指導方法の改善</p> <p>効果的なTT指導のあり方・・・国語・英語(1年), 理科(2年)</p> <p>効果的な少人数指導のあり方・・・国語(1年)</p> <p>効果的な習熟度別指導のあり方・・・国語・数学・英語(1年)</p> <p>発展的な学習の工夫・・・選択教科(2,3年)</p> <p>(2) 教材の開発</p> <p>意欲を育てる発展的な学習教材の開発・・・全教科</p> <p>意欲を育てる補充的な学習教材の開発・・・全教科</p> <p>(3) 評価方法</p> <p>意欲を高める評価方法の改善・・・全教科</p> <p>客観的な評価規準等の設定・・・全教科</p> <p>(4) 理論研究（指定校研究会への参加及び各種研究会への参加）</p> <p>(5) 校内授業研究会の実施</p> <p>(6) 研究のまとめ</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>「生きる力」を支える「確かな学力」の育成をめざして</p> <p>研究の見通し</p> <p>研究仮説及び全学年・全教科で取り組むことは昨年度と変わらないが、重点教科については未定である。また、研究の重点を「自ら考え自ら学ぶ力を育てる授業のあり方」に置いて研究を深めていく。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 昨年度の反省と本年度の校内研究体制づくり</p> <p>(2) 理論研究（指定校研究会への参加及び各種研究会への参加）</p> <p>(3) 校内授業研究会の実施</p> <p>(4) 指定校研究発表会の実施</p> <p>(5) 標準学力テストの実施</p> <p>(6) 研究のまとめ</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・理論研究
 - H.15. 7.24 基礎・基本の定着を図る数学教育講座で取り組みを発表
 - H.15. 8.22 「学習の評価」に関する研修会（中学校）への参加
 - 8.23 - 中国・四国ブロック -
 - H.15.10. 1 第2回少人数等の指導方法の工夫改善実施校連絡協議会で取り組みを発表
 - H.15.10.29 池田小学校研究発表会への参加
 - H.15.11.21 穴吹中学校研究発表会への参加
- ・校内授業研究会の実施
 - 昨年度は、先進校での研究発表会にできる限り多くの教員に参加してもらい、校内での授業研究に役立てることを目標にした。本年度は、各種研究会において取り組みを発表し、更に実のある授業について研究を続けて行った。
- ・2年生理科「電流の性質」「大気の動きと天気」において、効果的なTT指導のあり方をねらいとして授業を実施した。「電流の性質」においては、昨年度に引き続いてパフォーマンステストを実施し、学習意欲を高める評価方法について研究した。「大気の動きと天気」においては、等圧線を立体的に表す自作教材を生徒自身に作らせることにより、理解の定着を図った。
- ・1年生数学「方程式」「比例と反比例」において、昨年度に引き続き各単元の最後のところで、1つのクラスを習熟度別に2つに分けて授業を実施し、効果的な習熟度別指導について研究を行った。
- ・昨年度は教科担任の人数によって、どの学年のどの教科で少人数指導が実施できるかで決定したが、本年度は昨年度の反省をもとに、より効果のある学年・教科について協議し、決定できた。

2. 今後の課題

- ・本年度は、昨年度からの継続2年目の取り組みになるが、毎年4月の定期異動によって職員構成が一新される。その結果、学力向上の研究もまた1から始まるという感じになってしまった。1年目・2年目の研究成果をきちんとまとめ、スタートから全職員が研究の方向性をきちんと理解し、計画性のある取り組みができるようにすることが大切である。
- ・本年度は、高校入試改革の年と重なり、学校現場においては特に2学期の後半から慌ただしくなった。4月当初に立てた計画は、あくまでも平穩に1年間が過ぎていくことを前提にしており、その点において計画通りに実施できない状況も生じているところが課題の1つである。
- ・各教科において、本年度の研究の成果をまとめているが、まだまだ研究は不十分な点がたくさんある。次年度（最終年度）に向けて、これまでの取り組みの成果がはっきりと目にみえる形で残せるようなまとめ方を考えていきたい。
- ・授業研究会が校内だけで実施という結果になってしまったので、実施予定日時をもう少し早く決定し、指定校として研究の成果を研究授業を通して普及できるようにしていきたい。
- ・次年度（最終年度）で研究が終わりというのではなく、この研究をこれからも継続して行っていくという意識をもって、取り組んでいきたい。

学力把握のための学校としての取組

- ・定期的に行ってはいないが、重点教科においてTT指導や少人数指導、習熟度別指導を実施した場合は、生徒の意識や意欲の変容、その効果についての調査を行っている。
- ・標準学力テストについては、教科書の内容が1通り終わった3月に1年生で実施する予定にしている。
- ・特別に実施するというわけではないが、学校全体として、また、学年ごとに実施している中間テストや学期末テスト、校内実力テストや基礎学力テストについても、その結果をもとに各教科部会において話し合いを持ち、学力把握に努めている。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・上記の の研究の成果の欄で示したように、本年度は主に県主催の研究会等で取り組みを発表させていただいた。
- ・学校のHPにはまだ載せることができていないが、今後の課題としてHP担当の教員及び全職員の共通理解のもと掲載していく予定である。
- ・今は自分の学校内での各教科の研究成果を収集し、まとめていくことに四苦八苦している状況であり、まだまだフロンティアティーチャーとして、研究成果を他校に普及するための活動までには至っていない。どういう形で他校に普及していくかということを検討中である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無